

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷二十五第

月六年六十和昭

哀辭 故山本博士遺影及署名

論叢

支那の農家と田賦附加税……………經濟學博士 八木芳之助

佛印幣制論……………經濟學博士 松岡孝兒

企業者労働費論……………經濟學士 大塚一朗

貨幣流通期間と平均生産期間……………經濟學士 青山秀夫

時論

重慶政府の戦時物價政策……………十龜盛次

記事

山本博士逝く

追憶文

神戸 正雄 末廣 重雄 牧野 虎次 中瀬古六郎 本庄榮治郎

谷口 吉彦 松岡 孝兒 大塚 一朗 堀江 保藏 穂積 文雄

高木 眞助 蟻川 虎三 石川 興二 金持 一郎 岡本 清造

附錄

彙報

外國雜誌論題

本誌第五十二卷總目錄

恩師を追慕して

岡本清造

昭和二年五月、中庭の楓樹が新緑を窓に映してゐる静寂な研究室に先生をお訪ねし、水産經濟研究の素志を陳べて、御指導をお願い申上げてから、もう十五年の歲月が過ぎ去つた。其の間師とも仰ぎ、父とも頼つて來た先生と、丁度その楓樹がその頃と同じく新緑の色を湛えてゐる今日永久にお訣れせねばならなくなつたことは、何とも言ひやうのない哀みである。十有五歳の間親しく御風格に接し、御薫陶を忝うした私には、追憶は後から／＼と數限りもなく蘇つて來る。學問上の事については外に適當な方々も在らせられるから、些か私事にわたつて恐縮であるが、二三追憶を述べて先生の御遺徳をお偲び申上げ度い。

思ひ出せば、十五年前の五月に亡父の服喪中に水産經濟研究の素志を固め、その旨を書面で先生に披瀝して御指導をお願いし、忌明を待つて先生を研究室にお

訪ね申し上げ、改めて御指導をお願いした。先生と机を隔て、對坐すること數時間諄々と學問求道の士の心得をお諭し下され、又水産經濟をも專攻してゐる篤學の蟄川助教と共同して面倒を見てやるからと懇切に言ひ聞かせて下さつた。父を亡つた傷心の未だ癒えなかつた當時の私には、その時の先生の御言葉の數々は慈みの深い有難い御言葉と感ぜられ、今も耳朶に残つてゐる。

大學學生時代には植民政策、工業經濟、英經濟書の講述に列したのであるが、不勉強であつた私は、講壇で机の前に瞑目して一語も途切れることなく秩序立つて講義を進めて行かれる先生を、不思議な心持ちで仰ぎ見てゐたに過ぎない。植民政策の講義などは實に堂に入つたもので、淡々と流れるやうに講義を進められた。或る時どうした事か前に講義された所を再度講義され初めたが、その最後まで前の時と同じ文言で同じ分量を講義されたので、私共は先生は目をとちてゐられても字が讀めるのだなどと話合つたこともある。併

し、先生を追憶するとなると私には徹頭徹尾水産經濟研究の絲を通じて結ばれた先生を追想する外はない。それ程に、私は先生に色々と御配慮を蒙りましたのである。

先生は實に寛恕の徳を備へてゐられたかに思はれる。研究の指導に於ても直接に強めて斯く／＼せよとは仰せられずに、自發的に進める研究をお導き下さつた。私などは身の不肖を顧みず、この先生の寛大なお心に甘えて、随分と我が儘な勉強をしたものだ、今になつて流汗淋漓を覺える。而も何等のお咎めもなく、研究上の便宜をお與へ下さる點に於て實に懇切周到を極められた。例へば、大學院在學中にどうしても讀んで置き度い書物の二三點を申上げると、先生は早速と自ら電話を圖書室へお繋ぎになり、係りの方を呼んで色々と御相談下さつた、獨逸の水産關係書など斯うして購入の途が開かれたものが少くはない。殊に私の今に忘れられない先生の御懇情の思出は、昭和四年夏北海道へ調査に旅立つ前に御指導を乞ひ旁々御挨拶

にお伺ひした折に、暑い午さがりを夕刻まで細々と御注意を賜り、紹介状を認めて下さつた舉句に、「君鐵道の割引券を準備してゐるか」とお尋ね下さり、否とお返事申上げると、電話で學部事務室にお言ひつけになつて、翌日の出發に間に合ふやうにお取圖らひ下さつた。

水産に關する書物などの事でお伺ひすると、よく其の内容についてお訊ねになつた。水産關係の書物からは直接に私の求めてゐる經濟關係の記述を探り當てることが少く、水産關係の自然的な事象や技術に關する記述に出會ふのみで随分と惱まされたが、先生から訊かれるのが怖ろしさに辭引と首引きで一應讀み通すことゝなつた。非常に苦しかつたこともあつたけれども、そのお蔭でこちらに勤務することゝなり自然技術關係の方々と接觸するやうになつても、左程間諛つかずにおられる素地を養ひ得たことをつく／＼と有難く思つてゐる。專攻外ではあるが、先生の移植民政策演習の末席をけがしてゐた當時、演習終了後のひとゝき

を同僚諸氏と共に先生からお話を伺ふこととしてゐたが、當時私が讀んだ魚類移動に關する書物のことを申上げると、面白さうだがどんなことを書いてあるかとお訊ねに對し、鳥類及び魚類の移動—洄歸を特に溫度の變化・循環に結びつけて説明してある旨を掻い撮んでお話申上げたが、興味深い問題だが君は一體どう思ふとお尋ねになり、専門外の私には全く返答に窮した苦い経験を覚えてゐる。未熟な知識は振り廻さぬとだと、その時つく／＼と悟らされたのであるが、先生は私の無知未熟を責められることなく、寧ろ洄游魚を對象とする漁業にとつては魚類移動の眞因を探究することの重要なことを懇々と御説明下さつた。

先生は本邦水産經濟の調査研究は本邦沿岸を大體八乃至十に區劃して進めることが合理的であると、口癖のやうに言つてゐられた。當時私は自分の研究課題を有つてゐたので、先生のこのお訓へをその儘に聞き流して今に及んである。最近水産業統制の事などを実際取上げねばならぬに至り、色々と調べて見ると、先

生が古くから御抱きになつてゐた所と一致するやうなブロック形成を實現せねばならなくなつてゐることが明白となり、先生の達識に今更乍ら敬服してゐる。政策學を重んぜられてゐた先生には、所謂理論のための理論は無意味であつたかと推察せられる。先生の御意見は實際的であり、先生の御研究は常に我が國民經濟上の立點から進められてゐたことを窺ひ知ることが出来る。先生の舊著「水産經濟」を披いても「植民政策研究」を繕いても、その他の論稿に看るも、先生の主眼は我が國情に立脚して實際的な政策の基準を探究呈示せられる點にあつたことと、拜察することが出来、それだけに後學の者に多くの示唆を與へ、汲み盡くし難い泉をたゞえてゐる。先生の片言隻句が實は實際政策に觸れる所の多いことを、歲月を経た今日になつて憶ひ合はされるのである。

先生を師父とせ、先生の門弟であるといふことそのことだけで、不肖私の如き者も水産關係官民各方面の方々に接し、色々と實際上の問題にも觸れて、肩身の

廣い思ひをし、勇氣の鼓舞せられるのを覚えるのである。

外に向つて何事も責められなかつた先生は、御自身を待つに常に謹嚴そのものであり、些事と雖も決して疎略にされることなく几帳面で在られた。時折調査旅行の先きからお送りした田舎のつまらぬ繪葉書に走り書きしたものなども、永く鄭重に御保存されてゐて、後に一寸した機會にその旅行先きのことなどをお訊ねになつて、ハツとすることも多かつた。當地へ移つてからは自然御伺ひする機會も少くなつたが、京都を通過する度毎に夜中時間のことなども辨へず御門を敲くこともあつた。晩年兎角御健康のすぐれさせられなかつたにも拘らず、お伺ひすれば快く御面談下され、冬の寒い中でも努めて御引見下さつた。何たる機縁か、私の僚友が永く先生の御邸へ御見舞に上つてゐたが、「君がそんなに長時間お邪魔してはよくない」と注意され乍らも、お伺ひすると次々とお話が盡きず、つひ尻が長くなり勝ちであつた。先生の御健康を案じ

て紀南に御自適なさるやうに再三お薦めしたこともあるが、「いや色々な事情があつてネ」と仰言つてゐられた。先生は大阪尺士がお好きでなかつた。折にふれてそれを口外にせられた。それを知つてゐる私には、大阪人士の來遊の繁くなる白濱に是非にと強めておすゝめ致し兼ねたのである。今にして思へば、無理にでもお願ひしてゐれば、もつと永く御風格に接し得たことゝ甚だ遺憾に思ふ。

大阪人の心情を厭はれてゐた先生は、田舎者の醇朴を愛せられてゐた。昭和九年の夏に紀伊半島から志摩の島々の漁村を巡歴した調査旅行の報告を兼ねてお伺ひした時に、漁民の無智・無學、不衛生・不潔に不快の念を感じた儘をお話し申上げると、「彼等はそれでも素朴だから」とたしなめられたのを覚えてゐる。敬天愛人の字は先生のための修辭であると思ふ。平常静和の裡に坐臥せられてゐた先生も、談偶々經濟政策や産業政策に及ぶと随分と鋭い御言葉を吐露せられることもあつた。嘗て南氷洋捕鯨業のお話を申上げてゐる時

に國際捕鯨會議の事に及び、鯨族保存の名に於て英國が權威を資本的に支配して南氷洋捕鯨資源を壟斷せんとする旨を申上げるや、先生は英吉利のなす所常に斯くの如しと、其の世界政策の批判を時餘に互つて熱心に試みられた。吾々門弟は先生の高邁な御見識に感服すると同時に、正邪曲直を正し、義に向つては千萬人とも吾行かんとする烈々たる氣概に感服したことが、一再ならずあつた。曲つたことのお嫌ひであつた先生には、政策は決して術策の要素を微塵も含まず、破邪顯正の道と解されてゐたかとも拜察されるのであるが、名利を遠ざけられ、身を持するに清廉潔白で在らせられたればこそ、あれだけ堂々と自己の見識を表明し得たものと思ふ。

先生が三十年もの昔に御開拓になつた水産經濟研究は、今や人口食糧問題、國民の海外發展の問題、漁村組織の問題等々と關聯して、水産界はもとよりのこと、我が國全體としても當然に採り上げざるを得ざるに至り、漸次其の重要性が一般に認識せられるやうに

なつた。今一押で多年先生が胸裡に抱かれてゐた斯學研究の體を備へる所まで來てゐる。而も他面に於て先生が夙に研究上の問題とされてゐた諸問題が、今新しく實際的解決の必要に迫られてゐる諸問題となつて現れてゐる。あれやこれやと、當地に於て關係各方面の方々と接し、各種の實際問題の應接に違なき最近に至つて、特に先生の御教示を仰がねばならぬ事が次々と起つて來る。お訪ね申上ぐる毎に、「又お立寄りなさい」と優しく仰せ下さつたお言葉通りに又お訪ねして御教示を仰ぐことの出來なくなつたことは、私共の悲みである。昭和十年春未だ淺き京洛の地を離れるに臨んで仰せられた「傍き道へ逸れぬやうに」との御遺訓を遵守し、先生のお開きになつた此の美田に草を除き鋤を入れるの務を怠らずして、深き學恩の萬が一をも鞅ぬねばと存じてゐます。どうか先生、怠りを戒め、誤を匡し、足らざるを補ひ、永く御見守り下さいませやうにお願ひ申上げます。